

2023年9月11日作成（第1版）

## 研究に関するご協力をお願い

福島県立医科大学整形外科学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2023年 11月

福島県立医科大学医学部整形外科学講座 草野 敬悟

### ■ 研究課題名

---

人工股関節全置換術において白蓋カップ上方に骨移植を実施された患者の術後経過を検討するための後ろ向き研究

### ■ 研究期間

---

2023年11月～2024年6月

### ■ 研究の目的・意義

---

変形性股関節症は、股関節の関節軟骨や骨が破壊され、痛みやこわばり、歩行障害などを来す疾患です。変形性股関節症は進行し、やがて痛みが強くなり歩行困難となり生活に支障を来す可能性があります。治療法として、人工股関節置換術が行われます。人工股関節置換術は、大腿骨の付け根の丸い部分（大腿骨頭）と、それがおさまっている骨盤側の受け皿（寛骨臼）をどちらも金属に置き換える手術です。大腿骨側に設置する金属をステム、寛骨臼側に設置する金属をカップと呼びます。股関節の変形が強い場合では、寛骨臼側の骨が多く削られてしまっており、カップを設置した際、その上方に骨欠損が生じてしまうことがしばしばあります。このような場合、一般的に切除した大腿骨頭の骨を再度移植する骨移植が行われています。それによりカップを覆う骨の量が増え、カップの安定性が向上すると言われていています。しかし、この骨移植の方法には一般的に共通した定まった方法はなく、施設により移植する骨の形や適応などは統一されていないのが現状です。当院では骨の欠損の大きさに応じて、3種類の骨移植法が用いられております。具体的には、①：骨の欠損が小さい場合、小さいサイズで、皮質骨という固い骨を打ち込む、②：欠損が大きい場合、より大きく、海綿骨という骨も含んだ部分を打ち込む、③：②の骨をスクリューを用いて固定する、といった方法です。これらの方法による当院での中長期的な成績は明らかになっておらず、これらを明らかにすることで、人工関節置換術の治療成績のさらなる発展の一助となると考えています。

## ■ 研究対象となる方

対象：2006年1月～2012年10月の間に福島県立医科大学附属病院整形外科で人工股関節置換術を実施された方のうち、術後7年間以上の外来経過観察が可能であった方が対象です。

## ■ 研究の方法

対象となる方の診療情報から年齢、性別、手術を受けた際の年齢、骨移植法の種類、移植骨のサイズ、レントゲン画像から測定できる数値（CE角、Sharp角、crowe type、Clear zone）、BMI、移植骨が癒合した時期、手術にかかった時間、術中の出血量、術前及び最終経過観察時点での股関節の機能評価点数（JOAスコア）、カップの脱転の有無、などの項目についてデータを収集します。

## ■ 試料・情報の利用を開始する予定日

2023年12月1日

## ■ 研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学整形外科学講座であり、研究責任者は整形外科学講座 草野敬悟です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 竹之下誠一であり、それらの情報は福島県立医科大学整形外科学講座で利用し解析を行います。

## ■ 他の機関などへの試料・情報の提供について

他施設への試料・情報の提供はありません。

## ■ この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部整形外科学講座 担当：草野敬悟

電話：024-547-1276 FAX：024-547-1998 E-mail:kkusano@fmu.ac.jp